

ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム
平成 28 年度第二回企画運営委員会議事概要

【日時】 2015 年 6 月 2 日（木曜）12 時から 13 時

【場所】 情報科学 C 棟 401 室

【出席（敬称略）】 清水（委員長・情）、尾上（情）、井上（情）、増澤（情）、藤原（情）
若宮（情）、谷田（情）、松下（情）、原（情）、松岡（サイバー）、難波（生）、
平岡（生）、藤田（生）、大澤（生）細田一（情）、中村（基）、石井（生）、中野（生）
EUM（情）

[遠隔参加] なし

【事務局】 石黒（基）、松岡（情/事務長）、鐘ヶ江（情/大学院係長）、徳野（情/部門事務
局長）磯田（情/部門事務）、谷川（情/部門事務）、岡本（情/部門事務）、井汲（情/
部門事務）森田（生/部門事務）、

【欠席（敬称略）】 村田（情）、八木健（生）、柳田（生）、近藤（生）、細田耕（基）、
宮崎（基）

配布資料

HWIP ホームページ教員用ページにアップします。（パスワード：HWinnovation）

議題

(1) 教務委員会（資料 1）

- 今年度の教務活動について進捗報告があった。
 - ① 1 年次 HW セミナー合宿、4/8-10 で実施済み。第四期生全員参加、上級生も 25 名の参加があった。HP のイベント報告にも掲載済。
 - ② 1 年次 HW セミナー「研究室ローテーション」の訪問グループ、ラボを決定。それぞれのグループで指導教員の研究室を訪問することとなるため、その際は受入れ、指導のご協力をお願いしたい。
 - ③ 今年度の学生アドバイザー委員会の体制を決定。新入生(四期生)のアドバイザーも割り当て済み。指導教員の先生には自身の所属学生以外の履修生の対応もお願いすることになるが、ご協力をお願いしたい。
- 学生企画主体イベントとして、阪大 5 リーディングの履修生が合同で企画するイベントを開催予定(経費発生なし、HP 掲載済)。本プログラムとしても公認・後援することを承認いただきたい旨発現があった。(細田特任准教授)
 - ➔ 反対意見なく、承認された

- 香港バプテスト大学の来学について、および生命機能が推進する若手合宿についての報告があった。(細田特任准教授)

(2) 選抜委員会：(資料なし)

- (報告事項なし)

(3) 海外連携委員会 (資料3)

- 海外派遣について情報報告があった。今年度海外短期 2 名実施済み、予定 5 名。海外インターンシップ 2 名予定中。
- 海外インターンシップ 実施予定学生向け危機管理説明会(第 1 回)を 4/25 に実施済。
- 5/9-11(3 日間)、シドニー大学講師による Young Research Leader's Workshop を開催。参加履修生(部分参加含) 14 名。
- 危機管理マニュアル、緊急連絡網の改訂を行ったこと、別途関係者には配布していることの連絡があった。

(4) 産学官連携委員会 (資料4)

- イノベーション実践演習について報告があった。
- 参画企業との連絡協議会および学生アドバイザー面談について。
6/10(金) 10:30~12:00 連絡協議会。13:00~14:00 履修生ポスターセッション。
14:00~15:00 学生アドバイザー面談 を予定。
⇒ プログラム責任者はスカイプにて参加、協議会冒頭挨拶をいただく。
⇒ プログラムの進捗報告(15 分、清水先生)は短くしても構わない、再度検討調整を行う。

(5) 広報委員会 (資料5)

- 広報物を 7/11 の現地視察に向けて作成中。年次報告書も章立て検討済み、追って委員長には執筆依頼予定。
- 今年度リーディングフォーラムが 11/11,12 で開催予定(ヒルトン東京お台場)。現在の状況について報告があった。
- 今年度プログラム主催の国際シンポジウムを開催することとし、WG を立ち上げ。5/2 第 1 回打合せを実施し、開催候補日とおおよその内容・方針を決定。その後関係者調整の結果、1/26・千里阪急ホテルにて開催することを内定した
⇒ 認知・脳科学分野では候補者が内定しているが、日程調整未。正式に依頼するにあたって、シンポのコンセプトや狙いについて聞いておきたい(藤田教授)
⇒ 情報系も候補者の内諾を得ているので具体的手配も始めたい(現 ShanghaiTech University の教授)(松下教授)

(6) その他

1. 現地視察について（清水教授）

- 7/11 にプログラムの視察担当委員およびプログラムオフィサー、学振他担当者が来学し、現地視察が実施されることとなった。視察スケジュールとしては、コーディネータからの説明・質疑応答のほか、学生との面談と教育現場の視察がある予定。近日中にこちら側の参加対応者リスト等を提出し対応していく。
 - ⇒ S評価という概ね現在の計画が認められている状況であるため、大きく方針を変えない予定。
 - ⇒ 視察当日参加対応いただきたい委員長の先生方、幹事の先生方にはご協力をお願いします。
 - ⇒ 学外者として、NEC 加納様には出席依頼し快諾いただいた。

2. 技術補佐員 S の採用について（清水教授）

- 各研究科の履修生以外の博士課程学生を技術補佐員 S というかたちで雇用し、履修生のアドバイザーや融合研究の推進補助としたい。3 研究科で 15 名（生命 13、情報 1、基礎工 1）の候補者が選定され、うち 11 名が教員主導で進める融合研究テーマに参画する。また D4 以上の学生については履修生のアドバイザー的業務も担う。
 - ⇒ 融合研究に参画しない 5 名についての雇用理由について、難波教授から説明があった。いずれも融合研究テーマとしては採択されていない研究に従事するが、将来的に融合研究として展開・提供していきたいと考えている。
- ➔ 候補者である 15 名について、今年度雇用することが確認、承認された。

3. 奨励金の受給資格について（谷田教授）

- 昨年度まで奨励金受給者の報酬受け取りは基本認められていなかったが、今年度より例外事項が追加となり、プログラムコーディネーターが必要であると認めた事例については報酬を受け取ることができることとなった。ただし、条件はあるため、その都度事前に確認を頂きたい。

次回は 7 月 7 日(木) 12:00-13:00 情報科学研究科 C 棟 4 階 C401 開催予定。